Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-12

中国の農村学校教育政策の展開と農村学校教員一教育現場における知恵と葛藤

蘇, 于君

(Degree)
博士（学術）
(Date of Degree)
2015-03-25
(Date of Publication)
2017-03-25
(Resource Type)
doctoral thesis
(Report Number)
甲第6357号
(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006357

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（別紙様式３）

論　文　要　旨

氏　名　蘇于君
専　攻　文化相関
指導教員氏名　王柯

論文題目（外国語の場合は必ず日本語訳を併記すること）

中国の農村学校教育政策の展開と農村学校教員
——教育現場における知恵と葛藤

論文要旨

中華人民共和国の建国当初、学齢児童の就学率は 20%でしかなかったが、その後の 50 年間で小学校就学率は 99%にまで上昇してきた。また、中央政府は 1980 年代後半から義務教育の全国的な普及を政策目標として掲げ、その達成に力を注いできた。しかし、貧しい農村部や交通が不便で辺鄙な山間部では全ての学齢児童を就学させるには困難であり、義務教育を普及させるのは容易なことではなかった。

1950 年代から、農村学校は長い間教員不足の問題を抱えていた。教員不足を補うために教員を増員すれば、逆に教員の資質能力の低下という問題も発生した。これらの問題は農村学校教育の発展を阻害する主な要因の 1 つとなった。2000 年以降、中央政府は大量の教員を養成すると共に、教員の資質能力を向上させることにも力を入れてきた。しかし、今なお辺鄙な山間部の学校には教員不足の問題が依然として存在している。

中央政府は教員の社会的地位を向上させるための政策措置も講じてきたが、これらの政策は農村部にまでは行き渡らず、農村学校に勤めている教員は貧しい生活を余儀なくされた。特に、建国以来、農村学校教育の担い手として大きな役割を果たしてきた「民辦教師」と、1980 年代から登場してきた「代用教員」とは中国の農村学校教育の発展に大いに貢献してきた。だが、彼らはそれらの貢献度に見合った報酬や福利厚生を与えておらず、国の転変する政策に翻弄された者も多い。本論文は、そのような困難の中で、葛藤しながらも教育現場を支えてきた教員の実像を探ったものである。

本研究の特徴は、具体的に以下の 2 点からなる。

1. 義務教育制度を実施する前と後ろの時期に分けて、中国の農村学校教育の発展とその問題点を教育現場で働く教員の視点から分析した。農村学校教員は農村学校の貧弱な施設や器具しかない条件の下で、低い給与と厳しい生活環境に耐えながら、生徒たちと直に接する中で農村部の学校教育の普及を支えてきた。また、農村学校教育政策と農村学校教員の果たした役割とを有機的に結び付け、それらの教育政策が農村学校教員に及ぼした影響を明らかにした。

2. 義務教育制度が実施される前と後の時期に分けて、教員養成・育成政策を跡付けて、山東省泗水県の農村学校の現地調査に基づいて、それらの政策が農村学校教員に及ぼした影響を実証的に検討した。その際、現職教員・退職教員との面談、教育関係の行政部局への取材、生徒たちへのアンケート調査、県の教育関連の史書・年鑑・統計データの収集などを通じて実態に迫った。

本研究を通じて、以下の 5 点の成果と結論を導き出した。

第 1 に、中国における建国以来の農村学校教育政策の特徴を整理し、農村学校教育発展の歴史的過程を総括した。建国以降、農村小学校の就学率の向上に伴い、中等教育が農村部で復興されてきた。しかし、農村学校教育のための資金手当や教育施設の整備は十分ではなく、教員も不足していたため、農村学校教育レベルはなかなか向上しなかった。

第 2 に、建国以来、各レベルの師範教育機関は大量の若手教員を養成し、現職教員の研修にも大きな役割を果たしてきた。しかし、この師範教育機関による教員養成の規模は農村学校の教員不足の問題を解決するにはほど遠かった。そのような状況の下で、民辦教師の雇用が農村学校の教育人材に対するニーズを満たす有効な手段となった。しかし、学歴レベルと教養知識レベルの低い民辦教師は農村学校教員不足の問題を解決するには役立ったが、農村学校の教育レベルの低下をもたらした。また、教員養成政策、在職研修制度が不備であったため、農村学校教員は師範学校のような師範教育機関での研修をほとんど受けられなかった。

第 3 に、本研究は、教育現場で奮闘する教員像をそれぞれの時代背景の下で描き出すことによって、農村学校教育の発展において教員の果たした役割とその限界を明らかにした。中央・地方政府の教育政策や行政措置が十分に実施されていなかったため、農村学校教員は現場の知恵と努力で難局を打開してきた。

第４に、戸籍問題は中国社会に長年に渡って存在し、都市・農村間の教育不平等をもたらす直接的な要因の１つとなった。戸籍制度は農村学校教員の仕事に対する意欲を阻害し、農村学校教育の発展を遅らせ、さらに農村社会の発展に影響を与えている。また、教育を受ける機会の不平等から生じる問題は戸籍所在地が農村部にある人口の教育の全般にかかわっていることがわかる。

第５に、本研究は「特設ポスト計画」をはじめとして、2000 年以降に実施された農村学校教員の養成政策を詳しく分析した上で、関連諸制度の不備と実施過程の問題点を明らかにした。また、農村学校教員の任用制度の改革、農村学校教員が仕事と生活面で直面する課題、とりわけ給与、住宅保障などの分野について検証した。これらの待遇が改善されない理由の１つとして、地方政府の意志と実行力が欠けている点を明らかにした。

〔課程博士用〕

論文審査の結果の要旨

氏　　名	蘇　于君		
論文題目	中国の農村学校教育政策の展開と農村学校教員 ――教育現場における知恵と葛藤		
判　　定	(合　格)・不　合　格		
審査委員	区　分	職　名	氏　　名
	委員長	准教授	谷川　真一
	委　員	教授	王　　柯
	委　員	教授	朱　春躍
	委　員	北海商科大学教授	石原　享一
	委　員		印

要　　旨

本論文は教育と社会制度の関係という視点から、資料研究と現地調査などを通じて中華人民共和国樹立以降の、①農村学校教育の制度・政策の歴史的変遷、その成果と問題点、②農村学校教員の養成政策とその問題点、③農村学校教育の実態と教育現場の教員のあり方、④具体的な事例に対する分析を通じて、農村学校現場で教育を担ってきた教員が農村学校教育の発展にどのような役割を果たしたかを分析するものである。全文は義務教育の実施前（第Ⅰ部一～三章）と実施後（第Ⅱ部四～七章）の２部に分けられ、序章と終章を加えて全９章から構成される。

序章では、問題意識、及び研究の目的と意義を明示し、先行研究を整理した上で、本研究の特徴、研究方法と使用資料について説明し、本論文で頻出する重要な概念を解説する。

第一章「教育政策の変遷と農村学校教員」では義務教育制度が実施されるまでの農村学校教育政策の変遷を明らかにし、新中国の樹立初期、大躍進期、国民経済調整期、文化大革命期という４つの時期に分けて、農村学校教育の発展の特徴をまとめ、これらの教育政策が農村学校教員に及ぼした影響を明らかにした。

第二章「農村学校教員養成政策と『民辦教師』への依存」では、義務教育制度が実施されるまでの農村学校教員の養成・育成政策の歴史的変遷を検討した上で、山東省泗水県を事例に農村学校教員の養成・育成の実態の特徴を分析し、農村学校教員の養成・育成政策の農村学校教員の任用に与えた影響と弊害を分析した。

第三章「教育現場における農村学校教員」では、教育現場の農村学校教員の仕事と生活の実態を探り、農村学校教員が教育現場で果たした役割について考察し、彼らが経済的・社会的に低い地位に置かれている状況を明らかにした。

第四章「戸籍制度と農村学校教育」では、特に留守番児童の増加、流動児童の就学問題、高等教育を受ける機会の差別、農村部生徒の進路など、中華人民共和国特有の戸籍制度がもたらした都市・農村間の教育格差の問題を取り上げて分析し、義務教育制度実施後の農村学校教育の問題点を明らかにした。

第五章「農村学校教員養成政策へのテコ入れとその実態」では義務教育制度実施後の農村学校の教育修士教員養成計画、「三支一扶政策」、学費免除による教員養成政策、小中学校教員の国家レベル育成研修計画という４つの農村学校教員の養成・育成政策とその実態を分析し、未解決のまま残された「民辦教師」も取り上げ、農村教育の発展における教員問題の重要性を分析した。

第六章「特設ポスト教師計画の理念と実態」では、全国の実例を収集・整理し、中国政府が導入した「特設ポスト教師」計画を募集から採用までの全プロセスを分析し、それが農村学校教員の仕事・収入・生活にもたらした影響を検討した。

第七章「社会変容期の農村学校教員の仕事と生活」では、山東省泗水県の農村学校教員の仕事と生活実態を実例に、社会変容期の農村学校教員の採用状況を通じて農村学校教員の資質レベルの変化を明らかにした上で、教員の定着率に影響する農村学校教員の経済的待遇改善の重要性を検証し、教育現場で働く農村学校教員の農村学校教育の発展に果たした役割を明らかにした。

終章「本研究の結論と今後の課題」では、以上の議論を整理し、本研究の結論を導き出し、今後の課題を纏めた。

本研究は、地方行政の教育局、学校、教員・生徒への訪問取材を複数回実施し、農村学校教員の養成・研修から採用に至る人事制度の仕組みを綿密に整理し、農村学校教員の勤務の実態、生活の現状などを把握した上で、政策制度面と実践面の両方から今までの中国農村学校教育発展を阻害した要因を的確に分析し、農村学校教員の重要性を社会に再認識させ、先行研究の空白を埋める研究である。

従来の先行研究は、ほとんど中国の農村学校教育政策と農村学校教員の役割とそれを制約した要因について別々に論じている。しかし本研究は両者を有機的に結びつけ、中国国家図書館、教育行政部局、山東省泗水県档案局等で収集した資料を利用しただけではなく、山東省泗水県の農村部学校における現地調査に基づき、農村学校教育の実態を深く掘り下げ、中国の農村学校教育の発展とその問題点を教育現場で働いている教員の視点から実証的研究を行い、義務教育制度を実施するまでの時期における農村学校教育の発展と農村学校教員の果たした役割との関係を明らかにしたため、その独創性が認められる。

なお、本論文の一部は以下の2本のレフェリー付き論文として既に発表されている。

1.「中国における農村教員養成制度とその実践」『国際文化学』第２３・２４号、2011年、131-145頁。

2.「改革開放前の中国における農村学校教育―基礎教育普及政策の意義と限界」『国際文化学』第２７号、2014年、69-89頁。

本審査委員会は以上の諸点に基づき、蘇于君氏の提出した本論文が博士（学術）の学位を取得するに値するものと判定した。